

年末恒例の「新語・流行語大賞」の候補50語が11月19日に発表され、翌20日の朝刊にその記事が載りました。朝日・毎日・産経・日経の4紙の見出しや本文で紹介されている候補は「レリゴー」(2紙)、「妖怪ウォッチ」(3紙)、「ダメよ～ダメダメ」(2紙)、「集団的自衛権」(2紙)、「ありのまま」(2紙)でした(いずれも東京で発行された朝刊)。12月1日に発表されるトップ10と年間大賞にこれらを選ばれるか興味津々です。インパクトの強さからすると「ダメよ～ダメダメ」が大賞に決まるのではないかと私は思いますが、どうでしょうか。

学級の中で大賞候補一つ、トップ10に残ることば五つを子供たちに投票させ「新語・流行語大賞」の学級版を決めても面白いでしょう。

「新語・流行語大賞」は1984(昭和59)年に始まりました。以前は新語と流行語を別々に選出し、91(平成3)年から年間大賞が設けられました。

大賞は、その年の1年間に書かれたり、話されたりした「ことば」のなかから世相を軽妙に映し、多くの人々の話題に上がったたり、共感された新語・流行語を選び、その「ことば」に関わった人物、団体を顕彰するものです。

ところで、2011年11月19日の朝日新聞別刷り「be on Saturday」の「beランキング」に、「記憶に残る新語・流行語大賞」が取り上げられていました。その順位は1位-新人類(1986年、1056票)、2位-オバタリアン(89年、939票)、3位-同情するなら金をくれ(94年、713票)、4位-アラフォー(08年、610票)、5位-自分で自分を褒めたい(96年、535票)。以下、セクシャル・ハラスメント(89年)、マルサ(87年)、想定内・外(05年)、イナバウアー(06年)、マニフェスト(03年)が続きます。

3位と5位とオバタリアンを除く七つのことばは、2012年11月発行の大辞泉第二版には載っています。今年の候補のうち来年の今頃、いくつが生き残っているか予想させてもよいでしょう。

(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)